

# 『エゾシカセーム』が出来るまで

これまで、多くのエゾシカが捕獲されてきましたが、その皮については、一部が毛皮に利用される程度で、大部分が廃棄処分されてきました。エゾシカ学では、奈良県毛皮革広報協同組合と社団法人北海道猟友会と協同で、エゾシカ皮を原料にしたセーム革の商品開発に成功しました。その工程をご紹介します。

## 1: 原皮の仕入れ

安全性が求められる食肉は、解体処理場から出荷すべきですが、皮についてはハンター個人が野外で剥がしたものと処理場で剥がされたものが存在します。これらを初年度は奈良の加工工場へ送付していただきました。肉だけ持ち帰り、不要部位を山野に放置することで、猛禽類の鉛中毒死やヒグマとの遭遇の危険性の増大などが問題となりました。そのような問題や無駄死を減らすためには、肉だけでなく、皮も活用することで、残滓の回収率を上げる必要性が出てきました。

そこで、社団法人北海道猟友会の協力を得て、原皮の回収を開始致しました。

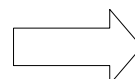


なめし作業が可能な奈良県毛皮革広報協同組合と株式会社春日の協力により、奈良県において北海道猟友会会員より送られてきた箱から原皮を取り出します。

## 2: 洗浄、脂肪および毛の除去



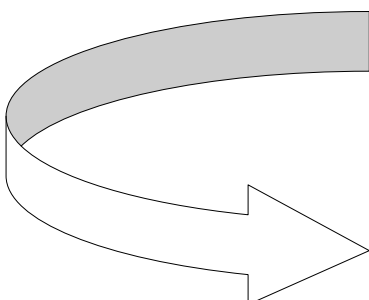
皮下脂肪や汚れを取り除きます。



乾燥させます。



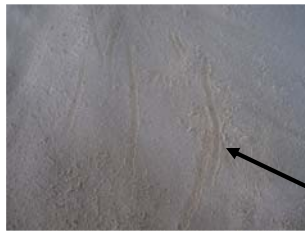
フレッシュングマシンで、エゾシカセームを作るうえで不必要な毛を取り除きます。



### 3:なめし・ピッキング



エゾシカセームのなめしドラムです。1度に70~100枚程度の皮をなめすことができます。  
なめし工程は、アルカリ膨潤なめしを施し、その後乾燥し、再度このドラムにいれ鱈肝油魚油還元なめしを行います。



乾燥・ピッキングを数度繰り返します。  
ピッキングとは細胞を広げていくことと、繊維を揉みほぐすことにより、柔らかさと耐久性をもたらす作業です。

現在の課題は、解体処理の際に使われるナイフの傷が皮についてしまうことです。特にピッキングするとその傷口が拡張してしまいます。



#### 最終魚油還元

最終魚油還元作業により、セーム独特のクリーム色が自然発色します。

### 4:ミリ合わせ・最終研磨処理



目的に応じた厚みにあわせてスライス、表面を研磨します。

### 5:最終仕上げ



ロールプレスアイロンで表面粒子を整え最終仕上げをします。この後折りたたまれ、パッケージングして完成です。